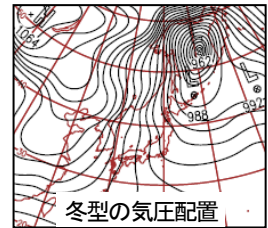


【12月の気象】

- ▷ 12月に入ると、シベリア高気圧が勢力を強め、アリューシャン低気圧が発達し、西高東低の冬型の気圧配置となつて、寒気の流れ込む日が多くなります。
- ▷ 冬型の気圧配置となると、日本海側では曇りで雨や雪が降ることも多くなりますが、太平洋側では晴れて空気が乾燥します。愛媛県の平地では晴天の日が多いですが、山地では雨や雪となることがあります。
- ▷ 季節風が西から関門海峡から流れ込む場合、中予や南予北部の平地でも大雪となることがあります。
- ▷ 冬型の気圧配置が強まる場合は、強風（強風・暴風）や高波（波浪）のほか、雪による視程障害（風雪・暴風雪）、降雪や積雪（大雪）、路面凍結による交通障害や水道管の凍結（低温）、電線や船舶への雪の付着（着雪）などにも留意してください（括弧内は対応する注意報や警報等）。
- ▷ 12月でも大雨災害が発生することがあります。2015年12月11日未明に四国を通過した低気圧に伴う大雨によって、県内では家屋の浸水や土砂崩れの被害が発生しました。

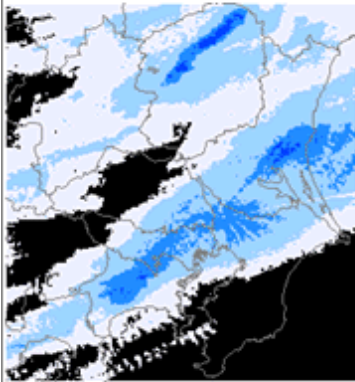
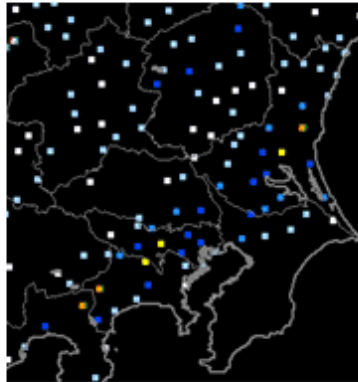
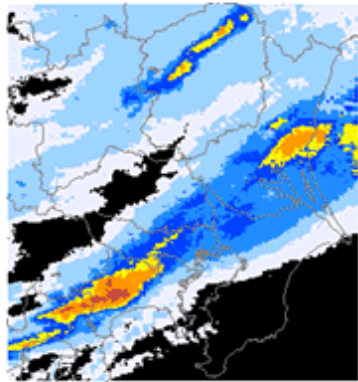


【気象用語】「解析雨量」とは

「解析雨量」とは、気象庁・国土交通省が保有する気象レーダーの観測データに加え、気象庁・国土交通省・地方自治体が保有する全国の雨量計のデータを組み合わせて、1時間の降水量分布を1km四方の細かさで解析、提供するものです。

解析雨量は30分ごとに提供していますが、「速報版解析雨量」というものもあり、これは10分ごとに提供しています。例えば、9時の解析雨量は8時～9時、9時10分の速報版解析雨量は8時10分～9時10分の1時間雨量となります。

解析雨量や速報版解析雨量は、雨量計の観測網だけでは捉えることのできない局所的な強雨も把握することができるほか、[降水ナウキャスト](#)・[降水短時間予報](#)や[危険度分布](#)の作成にも利用されています。ご利用の際は、気象庁ホームページの[今後の雨（降水短時間予報）](#)のページをご覧ください。

レーダーの1時間積算値	アメダスの1時間雨量	解析雨量
		
面的に得られる雨量	正確な雨量	面的で正確な雨量

雨量計は正確な雨量を観測しますが、雨量計による観測は面的には隙間があります。一方、気象レーダーでは、雨粒から返ってくる電波の強さにより、面的に隙間のない雨量が推定できますが、雨量計ほど観測精度は高くありません。解析雨量は両者の長所を活かし、気象レーダーによる観測をアメダスや他機関の雨量計による観測で補正し、面的に隙間のない、より正確な雨量分布を得ています。速報版解析雨量では、10分前のレーダーと雨量計の関係をその時刻のレーダーと組み合わせることで、迅速に雨量分布を提供します。

(利用上の留意点)

- ・レーダーの運用休止に伴い、該当する地域の降水強度が表示されないか、弱く表示されることがあります。
- ・レーダーの電波が雨雲以外から反射されることなどで、実際の降水よりも強く表示されることがあります。